

# TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)  
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 8/27 日付 ベルブホール (ベルブ永山5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

第67回カンヌ国際映画祭グランプリ受賞作品

上映スケジュール

## 夏をゆく人々

(アリーチェ・ロールバケル監督作品)  
2014年/111分/カラー/イタリア

- ① 10:30 — 12:21
- ② 13:00 — 14:51
- ③ 16:10 — 18:01
- ④ 18:30 — 20:21



©2014 tempesta srl / AMKA Films Productions / Pola Pandora GmbH / ZDF/RSI Radiotelevisione svizzera SRG SSR idee Suisse

### チケット料金

前売 大人(中学生以上) 1,000円  
当日 大人(中学生以上) 1,200円  
子ども(4歳~小学生) 600円

(TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者と  
その付添者1名は当日600円です)

- \*全席自由席・各回入替制
- \*開場は各回15分前
- \*上映時間は変更になる場合があります。

### 企画者からのメッセージ

『夏をゆく人々』は不思議な手ざわりがする映画だ。

この作品では、イタリアの田舎で暮らす家族のある夏が、少女ジェルソミーナの視点で描かれる。思春期の少女の心のゆらぎが映されるストーリーは、決して特別なものではないはずだが、この映画がまとう幻想的な雰囲気は、観る者に不思議な感覚を起こさせる。

この作品はイタリアの新鋭監督、アリーチェ・ロールヴァケルの長編第2作目となる。本作には彼女の少女時代の経験が影響を与えているようで、主人公ジェルソミーナの母親役は、監督の実の姉が演じている。だからなのかわからないが、映画の中の家族のやりとりは、生々しく観る者の心をざわつかせる。姉妹がけんかをする様子も、お気に入りの曲を一緒に歌うところも、両親の諍いも、その場面ひとつひとつが、古い記憶を呼び起こすような不思議な感触を残して過ぎていく。まるで、自分のこども時代の夢を見ているかのような、何とも言えない感覚だ。

緑に囲まれたトスカーナの美しい風景はノスタルジックなイメージを思わせ、夢と現実を行き来するような幻想的な表現により、誰もが持っているこども時代の記憶が夏の風景に重なっていく。その表現の数々は映画をつかみどころのないものになっているかもしれない。しかし、不自由だったこども時代を愛おしく思わせる不思議な力がある。

原題の『不思議』というタイトルはまさにこの映画を表現するに相応しく、若い才能あふれる監督を象徴する言葉だ。

(尾川佳奈、飯野純平)



## 実行委員のおススメ映画コーナー



まずは『シン・ゴジラ』（樋口真嗣監督 / 2016年）

実際観るまでは正直全く期待していなかった。まず第一に、樋口監督が不安だった。『ガムウォーズ』『進撃の巨人』と、このところの作品は残念なものばかりで、やはりナディア島編の監督かな、と思っていた。庵野監督も私の中では疑問符が付いていた。庵野監督の実写作品の前作『キューティーハニー』のラストで京本政樹を巨大化させていたので今回は長谷川博己を巨人化させるのか、と思っていたがそれはさすがに『進撃の巨人』でやっていたから無かった。

冗談はさておき、今回の『シン・ゴジラ』大傑作である。ゴジラを今までの文脈から一切解き放ち、SFの物語を作り上げることを見事に成功させていた。この映画の世界は「円谷英二の生まれなかった日本」だそうで「怪獣」という概念そのものがない世界。その世界に巨大不明生物として現れたゴジラに対処する日本政府をリアリティある描写で描く。『怪獣映画』を観たかった人には少し違うかもしれないがそういう人は、意外なほどに怪獣映画のフォーマットに乗ったハリウッド版でも見ればよい。繰り返すが大傑作です。あと、この映画でぜひ見てほしいのが塚本晋也監督が演ずる間教授。タオルを首にかけての実相寺アングルがとても似合う。——（友寄和宣）

今回はじめて登場したゴジラの進化形態の部分はフルCGだからこそ生みだせた傑作だとは思いますが、どこかフルCGに冷たさを感じるのは私だけだろうか。特撮は人の手を介して作られるため完璧ではないが温かみが魅力だったと、今回新作を観てあらためて感じた。温かみも冷たさも判断する軸があるわけではなく、単なる観る側での感覚でしかないがゴジラシリーズを観続けてきた人にはわかって頂けるのではないだろうか。

また、冒頭のシーンでは政治映画を観に来たのかと錯覚するほどの政治色が強く表現されていた。ある意味、今回は政府が主役だったと言えるほどだった。さらに、昭和のゴジラシリーズだと政治家や官僚の人たちはどこか他人事のように議論を進めていたが、今回は各役職の人が一丸となってゴジラに挑む姿は輝いていた。映画だからこそ脅威は免れたものの、実際に米国の提案が強行突破されていたらと考えると夜も眠れないほどである。『シン・ゴジラ』はフィクションの中の話であるが、映像を飛び出し現実にかけている話かもしれないというリアルさを感じられたのは大きな魅力だと考える。——（赤津萌子）

『シン・ゴジラ』観ましたか？ 私は初日封切りにTOHOシネマズ新宿のIMAXで観て、2週間後に立川シネマシティの極上爆音上映でもう1回観ました。私はゴジラファンでも庵野ファンでもありませんし、勿論石原さとみファンでもありません（「鏡月」「ガルボ」は最高です）、『シン・ゴジラ』は大好きで素晴らしい傑作だと思いました。私と同じような友達もすっかりハマってしまい、もう5回も観たそうです（←ちょっと引いた…）。

今夏公開作のなかではトップクラスの興収を叩き出し、ゴジラが夏興行を制した様相、東宝ですらここまで大ヒットするとは思っていなかったそうです。また観た後すぐ語りたくなる内容ということもあり、賛否両論さまざまな批評・言説が飛び交っています。この現象をみるに本作の「問題作っぷり」が十分に観客に届いていることがわかります。

私は「問題作っぷり」の根底として庵野総監督と東宝の巧みなプロデュースを感じました。絶賛するか批判するかは別として、観客がアウトプットしたくなる仕掛けが戦略的に張り巡らされています。キャスト&スタッフの強固な気概を見事にプロデュースしきった東宝製作陣は本当に本当にあっぱれ！まだ未見の方、お早目のご鑑賞をオススメします。——（富山有樹）



次は海外のKAIJU映画を代表して『パシフィック・リム』（ギレルモ・デル・トロ監督 / 2013年）

怪獣といえば海外の若者たちにも大きな影響を与えたのは周知の事実。ハリウッド版Godzillaも何作かあるが、ここでは日本的な怪獣やロボットへの愛情が感じられる『パシフィック・リム』を推したい。

太平洋の深海の裂け目から突如現れたKAIJU、海上をのしのし歩いて街に向かい破壊の限りをつくす。人類は各国で協力して人型巨大兵器イーガーを完成させて反撃するが、敵も恐るべきスピードで進化していき、人類は追い込まれてしまう。さて大逆転はあるのか？

地球侵略という設定自体は定番だが、KAIJUのビジュアルは凶暴な恐竜でも、あまり姿を見せない宇宙人でもなく、まさに“怪獣”。こいつを退治するのも実戦に向かなさそうなほど人間扱い巨大ロボットだ。しかもマジンガーZ並みの必殺技まで飛び出して……。日本も世界平和に貢献できて良かった良かった。

子どもの頃に興奮したあの懐かしい感じと、現代ならではの設定や迫力の映像が絶妙にミックスした良作。この点は『シン・ゴジラ』に通じるところがあるだろう。2018年に続編も公開されるらしい。今から楽しみだ。——（深谷玄人）



絶賛公開中の『シン・ゴジラ』のシンは何を意味しているのか。新？ 神？ 真？ sin (罪)？ それともシンジ君のシン？  
そんな『シン・ゴジラ』を記念し、ここでは実行委員のおススメの怪獣映画を紹介いたします。ネタバレもありですのでご注意ください。



## 《 再びの呉爾羅 》 ☆ゴジラ研究家の方からも特別寄稿をいただきました

1954年、亡くなった祖父の話によると小田原の漁港にも小笠原諸島近海での貨物船沈没の情報は入ってきていたそうです。しかし東京に上陸した、かの怪獣【呉爾羅】の災害とも言うべき惨劇はどこか遠い国、もしくは箱 (TV) の中だけで起こっているような出来事だったらしい。ただ、これも亡くなった祖母の話ではTVの中で焼けただれる東京の街の映像を見て、8月15日の未明に空襲を受けて燃え上がる小田原の街を石垣山に避難して見ていた時のことと重ねて見ていたらしいです。また、1962年に北極の氷の中から目覚めたゴジラがキングコングと富士山周辺で激突し、熱海で熱海城を挟んで対峙していた時、父は怖いもの見たさに仲間とともにバイクを走らせ、真鶴半島から眺めていたと聞きました。

僕が初めてゴジラを目にし、その名前を聞いたのは1984年のことでした。再び目覚めたゴジラが1カ月ほど前の誕生日に両親が連れて行ってくれた東京の街を蹂躪している映像をTVで見ました。その後、東京から離れたゴジラが大島三原山の噴火の中に入っていくのを小田原の海から幼馴染のカツと自転車を走らせて見に行きました。(噴火しか見えなかったけど) カツが浜辺でロサンゼルスオリンピックのコカコーラのキャンペーンのヨーヨーを無くしたのでよく覚えています。

さらに5年後くらいだったかな、、、箱根の芦ノ湖にジャックと豆の木にでてくるようなぶっとい蔓に巻かれた巨大生物が現れたと思ったら、あのゴジラが僕の住む町小田原に上陸してきました。国道一号線を箱根に向けてゴジラが通って行ったのですが、幸いなことに箱根板橋駅前の叔父の電気屋は無傷でした。その後は芦ノ湖でゴジラとビオランテが激しく戦うのですが、どちらとも言えない咆哮や地響き、地鳴り、そして小刻みな地震がすごかったです。あの時のゴジラだかビオランテの咆哮は今でも耳に残っております。それ以降はまたしばらく【ゴジラ】に関するニュースや事件はTVの中のことと自分の中で思っていました。1995年に再び相模湾近辺にゴジラがやってきました。やってきたと言っても水中だったらしいので、ゴジラ直接の影響はそれほどなかったのですが、その影響で海の水温が著しく上昇し、冬だというのに暖かい時期の魚が大量に漁港に水揚げされたのが地方のタウン情報誌に載っていました。

そしてそして今年、、再びのゴジラです。すでもう、ゴジラという名前すら記憶の奥に追いやられた感がありましたが、今回職場近くの鎌倉で、久しぶりにゴジラを肉眼で見たとき、今まで見たゴジラとは明らかに異質でした。大きさといい、色といい、禍々しさといい、、、【オキシジェン・デストロイヤー】でゴジラを封じ込めた芹澤教授を見送った山根教授の「あのゴジラが最後の一匹とは思えない。」という言葉の思い出しました。急ぎ職場に連絡をし、次いで小町通りでコンニャク屋を営む友人に電話をしましたがまったく繋がりませんでした(その後連絡つく)。ゴジラその後のルートは鎌倉から川崎へと抜けたので、うちの横浜本社が倒壊することは無かったのですが、小杉に住んでいた派遣の女の子は実家へ帰らざるをえなくなってしまうりましたが、命があっただけでも儲けものかもしれません。

その後は皆さんもご存じのとおり状態で、無政府状態、壊滅した首都圏、京浜工業地帯、そしてゴジラと停止している原発とこれからの問題が数多く先送りにされており、まさに人が己の傲慢の上に手を出してはいけないものに手を出してしまった報いを受けている風さえあり、今この国の向き合ってる困難さは戦後でも有数な困難な状態かもしれません。しかし戦後や震災の後でも這い上がってきたように復興へと向かう気持ちを忘れない大和魂を再び見ることができればと、自分にも生き残った皆さんにも願わずにはられない想いです。僕も検査機器の技術者として化研と立川と鎌倉を行ったり来たりですが、前を向き、ただ前を向き頑張りたいと思います。

未来に向かって脱出する。まだ見ぬ未来に向かって脱出するために。 — (青木康至 / ゴジラ研究家・小田原市在住)



## そして最後はあの便乗映画『大怪獣モノ』 (河崎実監督 / 2016年)

『日本沈没』(2006年)が公開された時に便乗して『日本以外全部沈没』も公開されました。当初は単館レイトショーでしたが連日の満員でロングランとなり、公開規模も広がっていきました。

そして2016年では『シン・ゴジラ』の公開に便乗し『大怪獣モノ』が公開されました。便乗された方の作品はどちらも樋口真嗣監督で、便乗したのは映画祭にも2回ゲストに来ている河崎実監督です。

オープニングでは、どこかで見たことのあるような女性が会見場で「セタupp細胞はあります!」と力強く宣言します。そして大怪獣モノが現れ、人類は大ピンチになります。そこで万能細胞セタupp Xを用いて巨大化した博士の助手が大怪獣モノに立ち向かう!と、ストーリー的には『シン・ゴジラ』に良く似ているかも、というか怪獣映画定番の展開を見せます。が、驚くべきは巨大化した助手を演じているのが実際のプロレスラーの飯伏幸太さんと鈴木みのるさんであり、大怪獣モノと戦うときはまるでプロレスの衣服(パンイチ)のままなのです。ちなみに私が観た時は終了時に拍手が起きていました。

『シン・ゴジラ』もすごい映画でしたが、こっちの映画もいろんな意味ですごいです。ぜひご覧いただきたいと思います。ところで、あのオープニングの会見のもとになった、あの方さんはこの映画の存在を知っているのでしょうか。それがとても気に入りまして。 — (吉野治)

## TAMAシネマ隊募集!

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2016年11月19日～11月27日に開催予定の第26回映画祭 TAMA CINEMA FORUM をサポートするたまシネマ隊を募集します!

説明会は9月25日(日)、10月9日(日)のそれぞれ午後3時からを予定しています。  
応募方法などの詳細は後日ホームページの方で発表いたします。

## 第26回映画祭TAMA CINEMA FORUM

**2016.11.19(土)～11.27(日) 開催予定!**

現在は映画祭でどんな企画をしようかと案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第8回目を迎える日本で一番早い(!?)TAMA 映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに!



写真提供：映画ナタリー

©76, '16 SANRIO APPROVAL No.P0701182

## 支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会 (ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引 (当日チケットを、支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

## シベ超ニュース

アニメ版『時をかける少女』が今年で公開から10周年ということで、先月、東京国立博物館で野外上映が行われました。見に行きましたが1000人以上の人々が集まり、大変な盛り上がりを見せておりました。

そして、今年はウルトラマンが放送開始から50年ということで、こちらも記念イベントも行われているようです。さらに、シベ超は第一作の後悔、いや公開から今年でなんと20周年です。時間の流れははやいものです。シベ超の記念イベントはあるのか。更には新作が待ち遠しいですね。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ [www.tamaeiga.org](http://www.tamaeiga.org)

@tamaeiga (最新情報をフォロー) [www.facebook.com/tamaeiga](http://www.facebook.com/tamaeiga) (facebookページに「いいね!」で参加)